

挑む!

京都府立大学特任助教

土田 さやかさん(34)

腸内細菌ハンター 眼力キラリ



野生動物から腸内細菌を得るのは難しい。動物を追いかけてきたてのフンを確保すると、直ちに菌の居心地のいい条件で培養する。地道な作業の末、分離できた菌を顕微鏡で見る瞬間がたまらない。「いつもグッとくる。私にとってポーンナスステージです」

腸内細菌は様々な種類があり、食物の消化や健康の維持を助ける。菌のコレクションは野生動物だけで11種類。10回ほど訪れたアフリカでは、ゴリラやチンパンジー、ゾウなどを追

愛媛県生まれ。日本獣医生命科学大学卒業。野生動物を対象にした研究を希望し、2010年に京都府立大学博士後期課程に入る。14年12月から現職。

い、国内では北アルプス・立山で希少なライチョウの菌を集める。

父が医者で、家に医学書がたくさんあった。細菌や寄生虫の本が好きで、異様な姿に不思議とひかれていた。

視覚の感性は研究でも光る。培養皿の菌の塊は、一見似たり寄ったり。それでも、ゴリラなどで新種を次々見つけた。研究を率いる牛田一成教授は「僕には同じに見えても違いがわかる。天賦の才能」と彼女を評価する。

腸内細菌の種類はその動物の進化の記録でもある。ライチョウから見つけた植物の毒を分解する菌は、高山の厳しい環境で暮らせるカギを握る可能性がある。この知見を環境省が進める人工飼育に生かす動きも出てきた。「生き物はおなかの中から見るのが面白いんです」

(文・阿部彰芳、写真・滝沢美穂子)

記者から

腸内細菌はまだまだ謎だらけ。次はどこで、どんな動物の菌をとってくるのか、楽しみです。